

○ 本校の概要

本校は、千葉県館山市に位置する全寄宿舎制の区立特別支援学校である。区内小学校3年生から6年生までの児童が家庭を離れ、ぜん息、肥満、偏食、痛風等の健康課題を克服するために、寄宿舎生活の下に生活・学習に取り組んでいる。教育課程は各教科の年間授業時数を含め通常校と同様であるが、特別支援学校であるため他に年間35時間の健康課題克服のための「自立活動」の時間を設定する。児童の指導においては、学校と寄宿舎が連携の下に、少人数制の利点を活かした「学力の定着と向上」、集団生活の中で互いを認め合いながら自己肯定感や自信を培う生活指導の充実を目指している。今年度は特に他者との関わりを重視し、校内研究の主題を「自分の考えをもち、お互いに認め合うことのできる児童の育成～「伝え合う力」を育てる学習指導を通して。また、本校の位置する地域は、学校設置者であり保護者が生活する大田区とは異なるという特殊な環境下にあるが、地元の小・中学校も含め、地域の方々は非常に協力的で、本校の教育にも理解を示していただいている。大項目である「地域と共に歩む学校づくり」を念頭に、学校が果たすべき役割を踏まえた上で、学校と地域、そして家庭間のいっそうの連携強化を実現していく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
								評価	人数
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末児童アンケートの「タブレットや電子黒板などのICT機器を使う授業では、勉強が分かるようになった。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おわたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4: 設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3: 80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2: 60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 3: 80%以上で行った。 2: 60%以上で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末児童アンケートの「前より勉強が分かるようになった。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4: 学期に2～3回知らせた。 3: 学期毎に知らせた。 2: 年度間に1回は知らせた。 1: お知らせできなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B		
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4: 対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3: 80%以上の教員が働きかけた。 2: 60%以上の教員が働きかけた。 1: 60%以下の教員が働きかけた。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をばぐみします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4: 全教員が行った。 3: 80%以上の教員が行った。 2: 60%以上の教員が行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末児童アンケートで「前より自分の良い点や得意なことを褒められるようになった。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的に対応できた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末児童アンケートの「前より運動(体を動かすこと)が好きになった。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B		
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		年間を通して持久走に取り組み、体力の向上を図る。	4: 全教員で行った。 3: 80%以上の教員で行った。 2: 60%以上の教員で行った。 1: 60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末保護者アンケートで「学校は、子供たち一人一人の良さを認め、伸ばす指導をしているか。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施し、OJTを充実させる。	4: 学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3: 学期に1回(年間3回)以上行った。 2: 年度間に1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が95%以上 3: 肯定的評価が90%以上 2: 肯定的評価が80%以上 1: 肯定的評価が80%未満		B		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4: 月1回以上行った。 3: 学期に2～3回行った。 2: 学期1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4: 月1回以上更新した。 3: 学期に2～3回更新した。 2: 学期1回以上更新した。 1: 更新しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	年度末保護者アンケートで、「学校は、情報を公開することができているか。」という質問項目で、	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		A	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4: 毎回情報を提供した。 3: おおむね情報を提供した。 2: あまり情報を提供しなかった。 1: 情報を提供しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 肯定的評価が90%以上 3: 肯定的評価が80%以上 2: 肯定的評価が70%以上 1: 肯定的評価が70%未満		B		
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年1回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		C		
		児童と保護者が共同で参加する授業や家庭とのカードや連絡ノートのやり取りを行い、健康課題の克服を図る。	4: 学期に2～3回行った。 3: 学期1回以上行った。 2: 年2回以上行った。 1: 実施しなかった。	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0	4: 4 3: 0 2: 0 1: 0		D		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。